



平成30（2018）年度

多摩市若者会議

および 若者のまちづくりプロジェクト運営支援業務委託事業

実施報告書

合同会社TAO

▼本報告書に関するお問い合わせ先

合同会社TAO 担当：林田 暢明（総務省 地域力創造アドバイザー）

Tel: 090-1873-0040 mailto: hayashida.tao@me.com

Office: 810-0005

福岡県福岡市中央区清川1-8-8 かつやビル3F

1 多摩市若者会議 実施報告

1. 多摩市若者会議の実施について

多摩市の社会課題として、多摩ニュータウンや聖蹟桜ヶ丘等の住宅地を抱える多摩市において、近年、急速な高齢化が進んでいることが挙げられる。一方で、若い世代の動向を見ると、多摩市および近隣自治体に大学等の教育機関が多く、一定の人口流入は見られるものの市内に定着するにまでは至っておらず、こちらは人口減少が進んでいる。

こうした中、若い世代が主体となり、「住んでみたい」、「訪れてみたい」と思えるような魅力を創出し、発信していくため「多摩市若者会議」を実施し、市内外の大学生および39歳以下の若手社会人を中心として、口コミや SNS 等により多摩市の情報を発信していったところである。

また、今年度事業については昨年度の会議で成果として出てきた「若者が集うまちづくりの拠点」を創造するべく、若者会議実行委員（コアメンバー）を中心に、参加者の輪を拡大させながら、全5回のワークショップとフィールドワークを通して企画の検討、深化を図ってきた。会議、フィールドワークへの延べ参加者数は230人、参加者の平均年齢は 27.9歳(年齢制限なしの会議1回を含む)と、多様なバックグラウンドを持つ方々から衆知を集めて多摩市の未来を語る事ができた。

2. ファシリテーター

▼ 林田 暢明（はやしだ のぶあき）プロフィール

日本銀行、政策シンクタンクを経て、2005年、地域活性化を目的としたカフェ「T A O」を福岡市に設立。2013年から、総務省地域資源・事業化支援アドバイザーを受任し、現在は、全国で20自治体に対して、アドバイザー業務を実施している。この間、福島県南相馬市教育復興基本計画策定のための有識者会議副会長などを歴任。福島県双葉郡「双葉みらい学園高校」やカドカワが提供するネットの通信制高校「N高等学校」設立にもかかわるなど、教育分野、地域活性化分野に強みを持つ。また、角川ドワンゴのほかにも、東京海上日動火災地方創生アドバイザー、ポラスグループ コミュニティ創造アドバイザーなど、民間企業においても実績多数。41歳。北九州市出身。



3. 開催実績

会議内容	開催日	場所	内容	参加人数	平均年齢
第1回若者会議	6月1日(金) 19:00-21:00	パルテノン多摩	昨年度の振り返りと今年度の方針の共有	53名	27.3歳
第2回若者会議	7月6日(金) 19:00-21:00	パルテノン多摩	クラウドファンディング実現に向けてのアイデアソン	37名	25.1歳
第3回若者会議	8月31日(金) 19:00-21:00	パルテノン多摩	拠点の名称・立地の共有とフィールドワークの設計	26名	26.6歳
フィールドワーク	9月22日(日) 13:00-18:00	市内各所	多摩市内を3グループに分かれフィールドワーク	23名	—
第4回若者会議	11月16日(金) 19:00-21:00	パルテノン多摩	クラウドファンディングの報告と企画の深化	31名	26.3歳
第5回若者会議	2月13日(水) 19:00-21:00	パルテノン多摩	今後(来年度)の若者会議の企画について等	60名	31.7歳
合計				230名	27.9歳

4. 多摩市若者会議・開催レポート

(1) 第1回若者会議

第1回若者会議を実施し、昨年度の振り返りとそのアウトプットである若者の拠点の設立について、また、拠点づくりの原資についてはクラウドファンディングで行うこと等について全体で共有した。

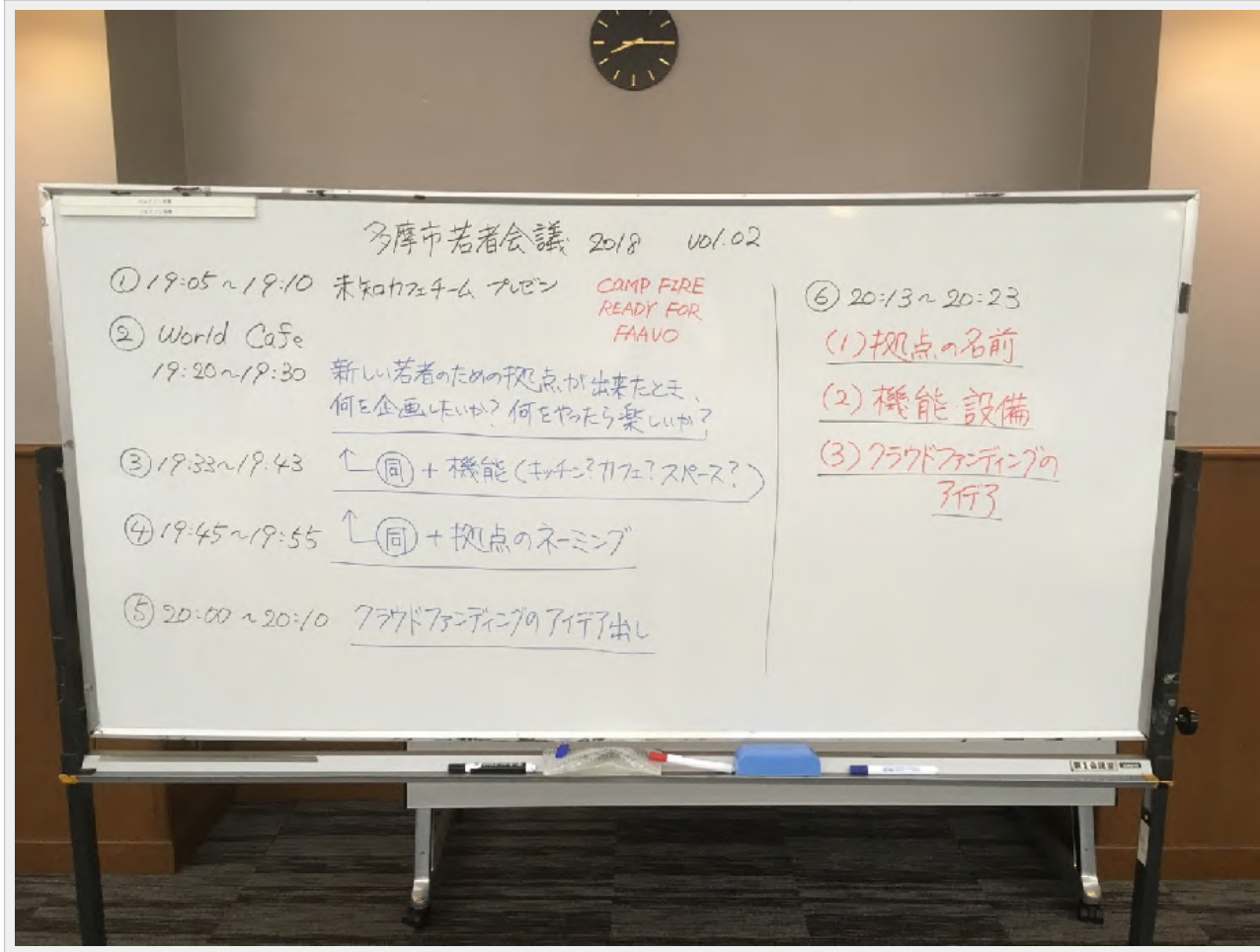
▼ 第1回若者会議の様子



(2) 第2回若者会議

第2回若者会議においては、若者のための拠点設立に向けて、「施設の名称」、「施設に必要な機能」、そしてクラウドファンディング実現に向けての具体的なアイデアを出すためのブレインストーミングを、ワールドカフェの手法を用いて実施した。

▼ 第2回若者会議の様子



(3) 第3回若者会議

第3回若者会議においては、本年度整備予定の「若者のまちづくり拠点」の名称・場所等を決定、全体に共有した（名称：MICHICAFE-TAMA REVIVAL-（ミチカフェ タマリバイバル））。その後、ワールドカフェ方式により、「拠点で実現したい地域との連携」、「次年度のアイデア検討&拠点での連携を検討するためのフィールドワークの設計」の2つの議題についてグループで話し合った。

(次ページへつづく)

▼ 第3回若者会議の様子



(4) フィールドワーク

第3回若者会議で出されたアイデアを踏まえ、(1) 多摩ニュータウンの課題発見&商店街巡りコース(京王永山駅出発)、(2) 街角インタビュー穴場スポット発見コースA・B(唐木田駅出発 ※2グループに分かれて実施)の3つのグループに分かれて市内各所をフィールドワークした。

多摩ニュータウンの課題発見&商店街巡りコース(京王永山駅出発)については、永山商店街、諏訪名店街、豊ヶ丘貝取商店街、落合団地商店街など、昭和40年代に入居が開始された初期の団地群や近隣の商店街を巡りながら、多摩ニュータウンの課題を歩きながら発見した。

また、街角インタビュー穴場スポット発見コースA・B(唐木田駅出発)については、唐木田菖蒲館、鶴牧西公園・鶴牧東公園、鶴牧団地商店街等を巡り、街角の市民の方にインタビューを行い、唐木田駅の周辺の穴場スポットを紹介していただき、実際にその魅力を体感した。

▼ フィールドワークの様子

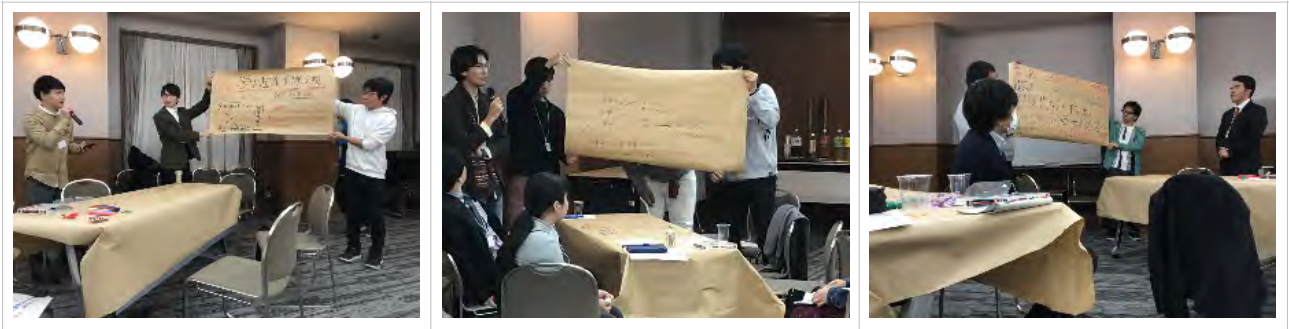


(5) 第4回若者会議

第4回若者会議は、「若者のまちづくり拠点（MICHI CAFE -TAMA REVIVAL-）」整備のためのクラウドファンディング実施後、初めての会議ということもあり、冒頭にはクラウドファンディングの実施報告（総支援金額 215万6,000円）と拠点の詳細（予定場所・内装画像等）について事務局から説明が行われた。

ワークショップでは、主にOST（Open Space Technology =開かれた分科会）の手法により、「若者のまちづくり拠点（MICHI CAFE -TAMA REVIVAL-）」の役割や機能、内装のアイデアに至るまで、深い検討と意見交換を行った。

▼ 第4回若者会議の様子



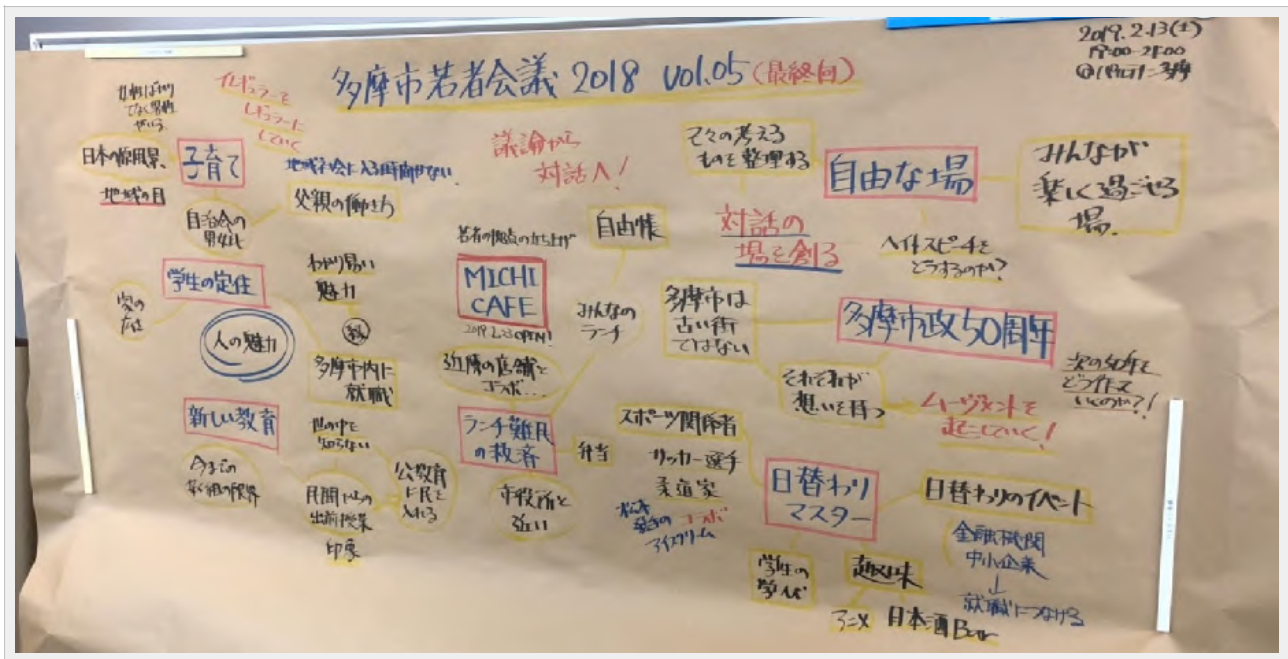
(6) 第5回若者会議

第5回若者会議は、2年目を迎える本年度最後のワークショップを開催した。今年度の活動を振り返るとともに、間もなくオープンを迎える「若者のまちづくり拠点（MICHI CAFE -TAMA REVIVAL-）」について報告した。

ワークショップでは、今後の若者会議の方向性をワールドカフェ、OST（Open Space Technology =開かれた分科会）の手法で検討した。具体的に、今後の若者会議で取り組みたい企画については、一日店長制度を設けた店舗運営、企業との連携、特に東京ヴェルディとの連携等、具体的な話題が出てくるなど、未知カフェの活用方法について話し合われた。また、多摩市制50周年への参画、学生の定住などのテーマについても、引き続き対話と意見交換を行なった。

▼ 第5回若者会議の様子





第5回若者会議で出てきた重要テーマ、「子育て」、「学生の定住」、「新しい教育」、「MICHICAFE」、「ランチ難民の救済」、「自由な場の創出」、「多摩市制50周年事業への参画」、「日替わりマスター制度による運用」等を宿題、課題と設定し、最終年となる来年度は、若者によるまちづくりへの参画のさらなる進捗を図っていきたい。

(次ページへつづく)

II 若者のまちづくりプロジェクト運営支援業務委託事業 実施報告

1. 若者のまちづくりプロジェクト運営支援業務委託事業について

「若者のまちづくりプロジェクト運営支援業務委託」については、昨年度の「多摩市若者会議」のアウトプットとして出た若者の集うまちづくりの拠点「MICHICAFE」の創設を中心として、ただ話し合うだけでなく、若い感性で多摩市政に参画していく実践プロジェクトを、これまでまちづくりに関わってきた専門的な知見をベースにアドバイザー業務を行っていくものである。

また、拠点づくりについては、市の予算を活用するのではなく、立ち上げの資金集めからクラウドファンディングの仕組みを使って自ら行うなど、これまでのまちづくりの事例としては全国的にも珍しいチャレンジングな取り組みを行ったほか、公立中学校との連携、企業との連携など、昨年度のアイデアを実行に移していくフェーズと捉え、実施した。

2. 事業実績

事業内容	開催日	場所	内容
キックオフ会議	4月14日(土) 14:00-16:00	パルテノン多摩	2018年度コアメンバーが集合し、事務局を設置それぞれの役割を確認
立川Tschooll視察	5月19日(土) 13:00-18:00	立川Tschooll	立川のファブラボを見学し、クラウドファンディングに関する知識を習得
第2回 定例会議	7月23日(月) 19:00-21:00	関戸公民館	クラウドファンディングに向けてのタスク整理等
物件探索	随時	市内各所	若者拠点創設のために、随時、市内の空きテナント物件等を視察
第3回 定例会議	8月25日(土) 13:00-15:00	旧富澤家	若者の拠点として多摩市の資産である古民家の活用を考えられないかについて討議
出張若者会議	9月-12月	青陵中学校	若者会議のコアメンバーである大学生等をファシリテーターとしてPBL支援を実施
COG発表	3月10日(日)	東京大学	MICHICAFEを起点としたまちづくりについて、COGのファイナリストに選出

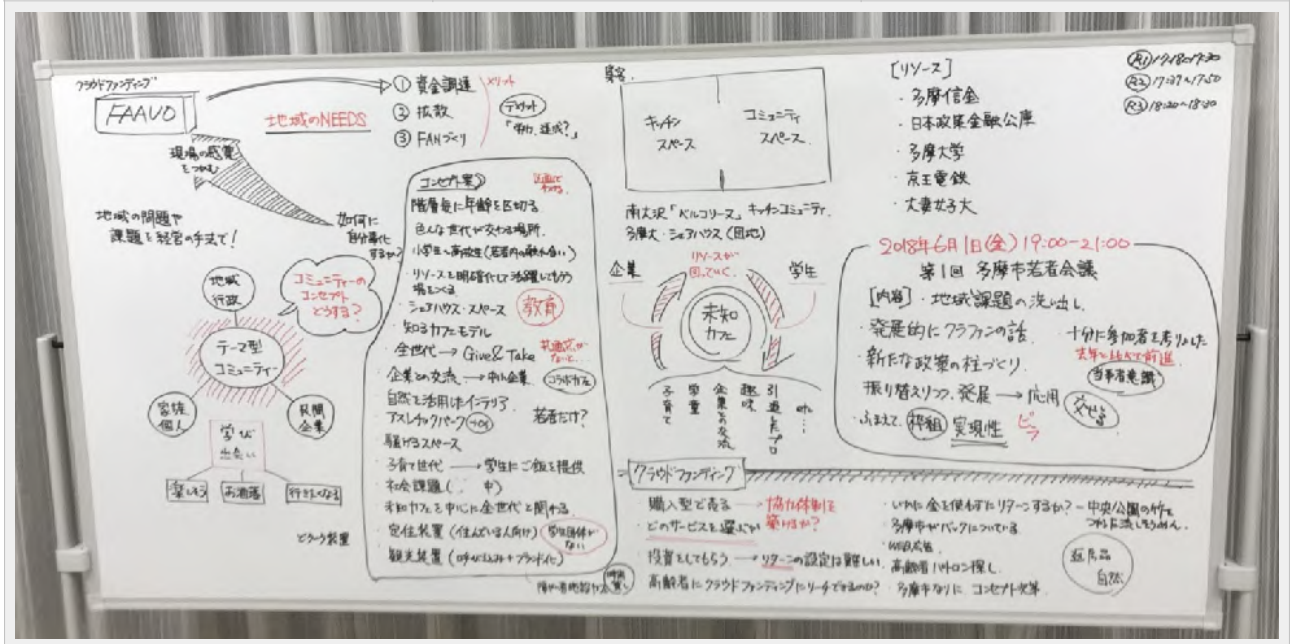
(1) キックオフミーティング

今年度は若者会議の開催のみならず、「若者のまちづくりプロジェクト」を立ち上げるため、昨年度「コアメンバー会議」と位置付けていた機関を機能強化し、事務局として運営できるような体制を構築することを全体で共有し、役割分担や予算、勉強会などを、これからどのように実施していくかを話し合った。また、事業化だけでなく、イベント開催や多摩市の自然、魅力の発信について、昨年度よりレベルアップした形で動いていくことを目標に設定した。



(2) 立川Tschool視察

多摩市における若者の拠点「Michi Cafe」創設に向けて、立川市内にあるファブラボ「Tschool」の視察を実施。ものづくりをテーマにしたコミュニティのあり方について学ぶと同時に、Faavoよりクラウドファンディングの手法についてもブリーフィングを受けた。

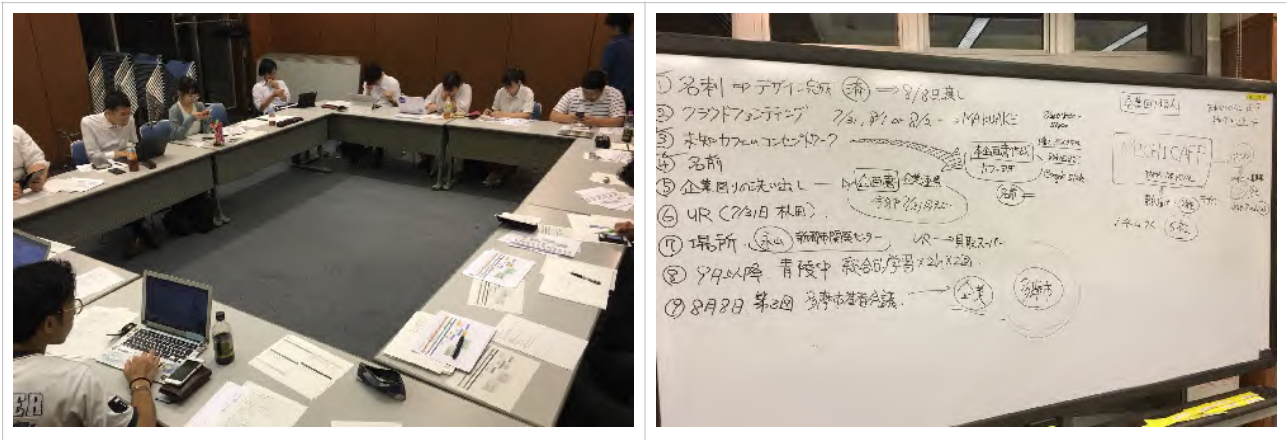


視察終了後、コアメンバーによる会議を行い MichiCafeのコンセプトについて、アイデアを出し合い情報共有を実施した。

(次ページへつづく)

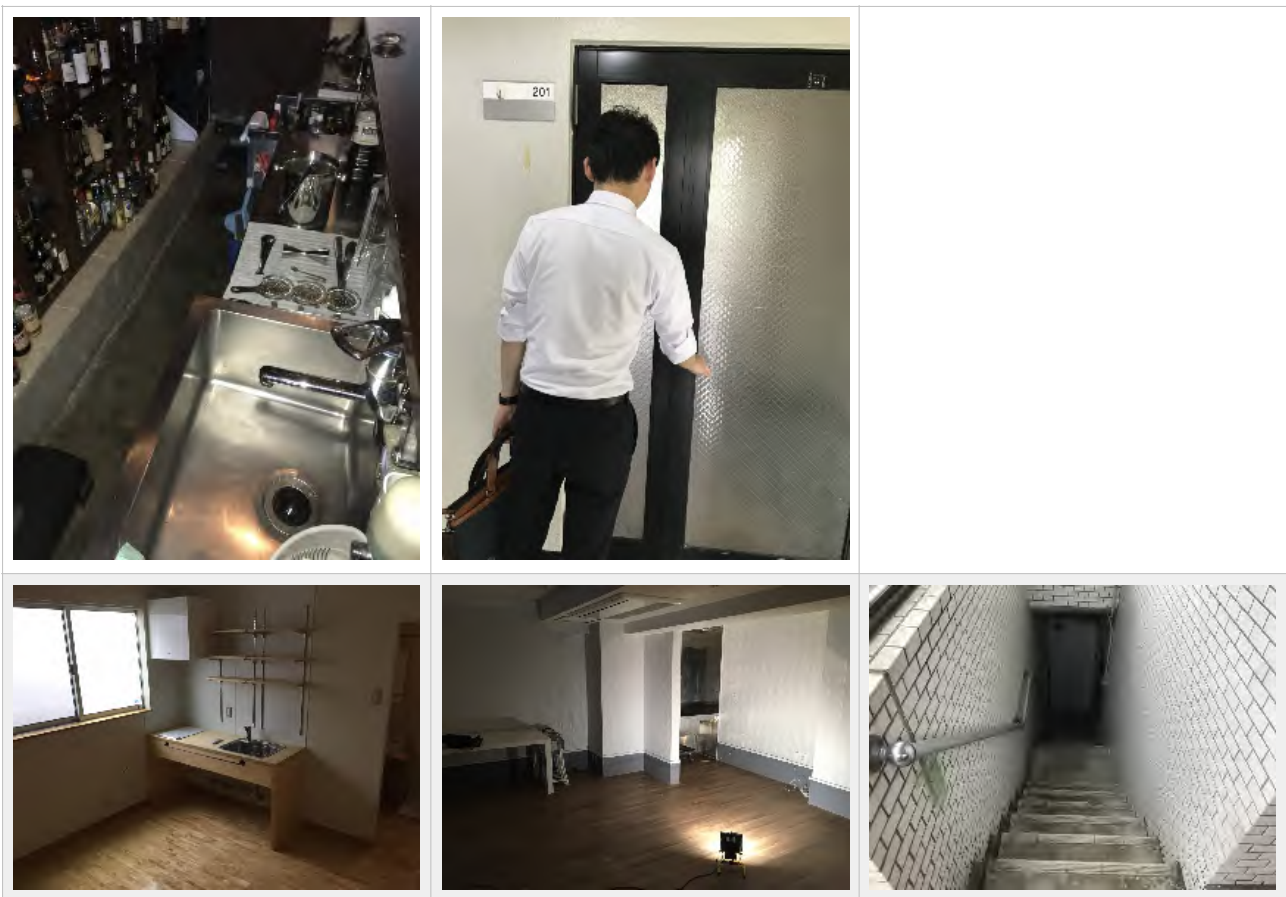
(3) 第2回 定例会議

事務局定例会議を実施し、名刺作成の必要性や、それに関わるMichi Cafeのロゴデザイン、拠点の具体的な場所選定や企業・地域との連携事業について情報を取りまとめ、全体で共有した。



(4) 物件探索

若者の拠点創設のため、市内の空きテナント物件等を問い合わせ、随時、視察を行った。



(5) 第3回 定例会議

新しく創設する「若者が集うまちづくりの拠点」の立地候補として、多摩市の資産である古民家、旧富澤家を活用することを討議した。長期的視点に立ってみれば活用の有効性は認められるものの、即時の運用については文化資産の所管である教育委員会等との連携も必要となり、難点があるとの結論を得た。



(6) 多摩市立 青陵中学校との「出張若者会議」

青陵中学校1年生の2学期（9月～12月）の3か月間に渡って、総合的学習の時間を使って、多摩市若者会議の大学生および若手社会人メンバーをファシリテーターとして「出張若者会議」を実施した。

具体的には、中学生が多摩市内に飛び出して社会実習を行うという企画について、ゼロからアイデアを出し、実践していくというPBL（Project Based Learning）をサポートし、市内商店街における企画を実施した。最終的には形にはなったものの、大学生ファシリテーターのクラスコントロール力が不足していたことや、現場教員との連携が一部スムーズにいかないなど、一部に課題がみられた。

しかしながら、若者会議と教育現場の連携という事実については、他地域でも例の少ない「地域づくり×教育」の好例となったといえよう。



(7) COG (チャレンジ・オープン・ガバナンス) ファイナリストに選出

多摩市若者会議と、そこから生まれた企画「MICHICAFE」の創出、またそれに伴うクラウドファンディングの成功との関連について、市民と行政とが協働でまちづくりを行う好事例が表彰・アドバイスを受けるチャレンジ・オープン・ガバナンスに応募した。

結果としては上位入賞は果たせなかったものの、全国の事例から最終的に13ケースに絞られた「ファイナリスト賞」を受賞し、これまで2年間取り組んできた多摩市若者会議の事例が広く認められる結果となった。



3. クラウドファンディングの実施について

若者の拠点となるカフェの名称を「MICHICAFE ~TAMA REVIVAL~」と設定し、京王線永山駅徒歩10分の場所に、「Meeting Space」「Cafe」「Free Space」の機能を持った場所として創設するべく、クラウドファンディングに取り組んだ。

「TAMA REVIVAL」には、“多摩”と“溜まり場”、“復活・再生”、“多摩川”を掛け合わせ、さまざまな世代の人が溜まり、交流し、新たなプロジェクトをどんどん生み出していきたいという願いを込めた。「未知カフェ」が担うことを企図している主な役割は、以下の通りである。

<未知カフェが担う役割>

- ① 既存の枠組みに捉われないコミュニティスペースを生み出し、多摩市が全国初の事例を生み出すこと。単なる飲食店でも、ワークスペースでもない活動拠点として、さまざまなアイデアを実施していく中で若者と社会を繋げ、新しい価値を世の中に提供していく。
- ② プロジェクトの創造・実施・改善による思考力や行動力の鍛錬、起業家精神の育成を行う。若者が試行錯誤しながら取り組むことによって、自らが問題を解決していける能力を身に付ける機会を提供し、活動において社会の隠れた負を見出し、それを新たなプロジェクトとして実行していくことで、社会を良い方向へと舵取りできる人材を輩出していく。
- ③ 人と人を繋ぎ、新しい発見や学びを得られる場を創出する。このスペースは多摩市民のみが利用する、また若者会議の参加者のみが利用するといった限定された用途ではなく、無制限の多世代交流を実現させる。次世代の運営者が生み出すアイデアによって多様な運用を行っていく。これによって今まで出会ったことのなかった人々や知識に触れていくことができ、人と人の繋がりを生み出していくことができる。

<それぞれにとってのMICHI CAFE>

- ④ 使っていただく方にとっての第二の家のようにくつろげる空間を提供する。利用者の人たちには、既存コミュニティ以外で気軽にくつろげる場として、第二の家のように集ってもらえる場所にしていきたいと考えている。イベントやカフェを通じて、既存コミュニティ外の人たちと交流することができ、近所の方たちと話すことで別の角度から多摩市について知ることができる場所になる。また、専門領域や大学も異なる同年代の利用者と交流することで、視野が広がり、結果として思考力、行動力、コミュニケーション力などを育てられる場所になることを企図している。
- ⑤ 街の人々にとっては、若者と関わる接点となる場所を目指す。街の方々にとっては、多摩市にいる若者の活動を知ることができる場所になる。また、興味がある MICHI CAFE でのイベントに参加することで、世代間を超えて同じ趣味を持つ仲間に出会うこともできる。さらには、市民から「若者」に対して聞きたい内容・提言したい課題を投げる場所としての機能も果たしていく。
- ⑥ 街の企業にとっては、市民を知る場所にする。多摩市に関連する商品を販売する際に、効率的にマーケティングできたり、企業と学生をつなぐ橋渡しの役割を担っていくことを狙う。

▼MICHI CAFEの基本情報

場所：多摩市関戸6-6-16 ニュースカイ桜ヶ丘 地下1階

アクセス：

小田急多摩線「小田急永山」駅・京王相模原線「京王永山」駅から徒歩10分
京王線「聖蹟桜ヶ丘」駅からバス6分+徒歩1分(または徒歩22分)

間取り：フリースペース（普段は椅子と机が並び、イベント時はフリースペースに）カフェスペース（ドリンク、アルコール、パスタなどの軽食を提供予定）

実施スケジュール：2018年10月：デザイン
2018年11～12月：改修作業
2019年2月1日：オープン

この場所ができることによって、これまで多摩市若者会議の中で生まれてきた、さまざまな地域を盛り上げていくためのアイデアも、実現に向けて、動き出していく。実際に、「多摩市をなんとかしたい」「多摩市を盛り上げたい」と思い、活動に参加している若者もたくさんいるが、なかなかそのアイデアを実現する場所や、そのアイデアを具体化していくきっかけや、スキルを持ち合わせていない人もいる。

そんな人たちが、多摩市の市民の方々や、いろいろな分野の方と、この場所での出会い、刺激を受け、次の一步を踏み出すきっかけとなる。この場所は、そんな人たちを後押しできるような場所を目指している。

▼クラウドファンディングの結果

クラウドファンディングトップ > 地域 > まちづくり > 多摩の溜まり場 "TAMA REVIVAL"未知カフェで出会いが生まれる

多摩の溜まり場 "TAMA REVIVAL"未知カフェで出会いが生まれる

関東 東京都 多摩 まちづくり カフェ



支援総額	2,156,000円
目標金額	1,500,000円
支援者数	151人
残り日数	終了しました

購入型 All or Nothing

プロジェクトが成立しました!
このプロジェクトは
2018年11月6日(火)23:00 に成立しました。

上記のようなコンセプトを掲げ、クラウドファンディングを実施した結果、合計151名の方々から2,156,000円の支援を得ることができた。これをベースとして「MICHICAFE」の整備を実施したが、市の予算を使わずに、かつガバメント・クラウドファンディングでもなく、行政と市民が連携しつつも、市民の資金でまちづくりを行うという、全国的に見ても稀な事例となった。

4. 昨年度の若者会議提案に関する成果について

昨年度の多摩市若者会議で、参加者から出てきた提案は、(1) パルテノン多摩の活用(大階段・建物内)、(2) ネット上で話題になるイベントの開催、(3) 魅力発進~「キャラクター」や「遺跡」の活用、(4) 「学園企業都市」~インカレサークルの設立~、(5) 「祭り」~企業と学生のコラボレーションイベント、(6) 公園の活用~市民の力を活かす~、(7) 地域資源(昆虫等)の活用~セミを食べる?!たこ焼きロシアンルーレット~、(8) 色々な人が集まれるカフェを作る~Everyday find new thing 未知カフェ~、の8案であった。

これらを纏めて、今後の多摩市若者会議の方針として4つの大テーマ(① 多摩市の公園を再生し、まちの魅力にしよう!、② パルテノン多摩&多摩中央公園の活用、③ パルテノン多摩& サンリオキャラクターの活用、④ 未知 Cafe と学園企業都市 ~若者団体が多摩市を盛り上げよう~) に分類して全体で発表した。これら4つのテーマについての今年度の状況については、以下の通りである。

① 多摩市の公園を再生し、まちの魅力にしよう!

- ・「多摩中央公園ワークショップ」に若者会議コアメンバーが参加。
- ・11月多摩中央公園 プレイスメイキング社会実験「PARK LIFE SHOW」に参加し、コワーキングスペース設営を担当。

② パルテノン多摩&多摩中央公園の活用

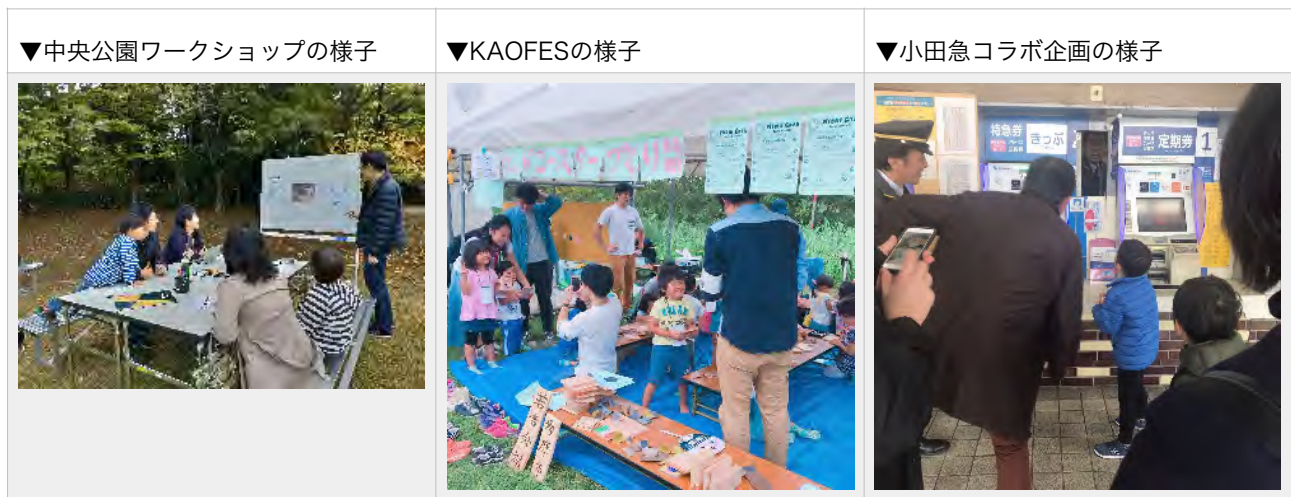
- ・「図書館本館再整備基本計画検討委員会」に若者会議コアメンバーが参加。
- ・「新しいパルテノン多摩をどう使う？ワークショップ」に若者会議コアメンバーが参加。

③ パルテノン多摩&サンリオキャラクターの活用

- ・サンリオキャラクターの具体的な活動にまでは至らなかったものの、サンリオの若手社員が若者会議に参加。引き続き、若者会議との提携等について模索していきたい。

④ 未知Cafeと学園企業都市 ～若者団体が多摩市を盛り上げよう～

- ・「MICHI CAFE」の整備とオープン。
- ・「市民と共に描く永山駅周辺再構築ビジョンワークショップ」に若者会議コアメンバーが参加。
- ・クラウドファンディングの広報PRを学生が実施。
- ・小田急電鉄とのコラボレーション企画を実施。
- ・地域イベント「KAOFES」に参加し、地域事業者齊藤工務店と協働して子ども向けコースターづくりを担当。



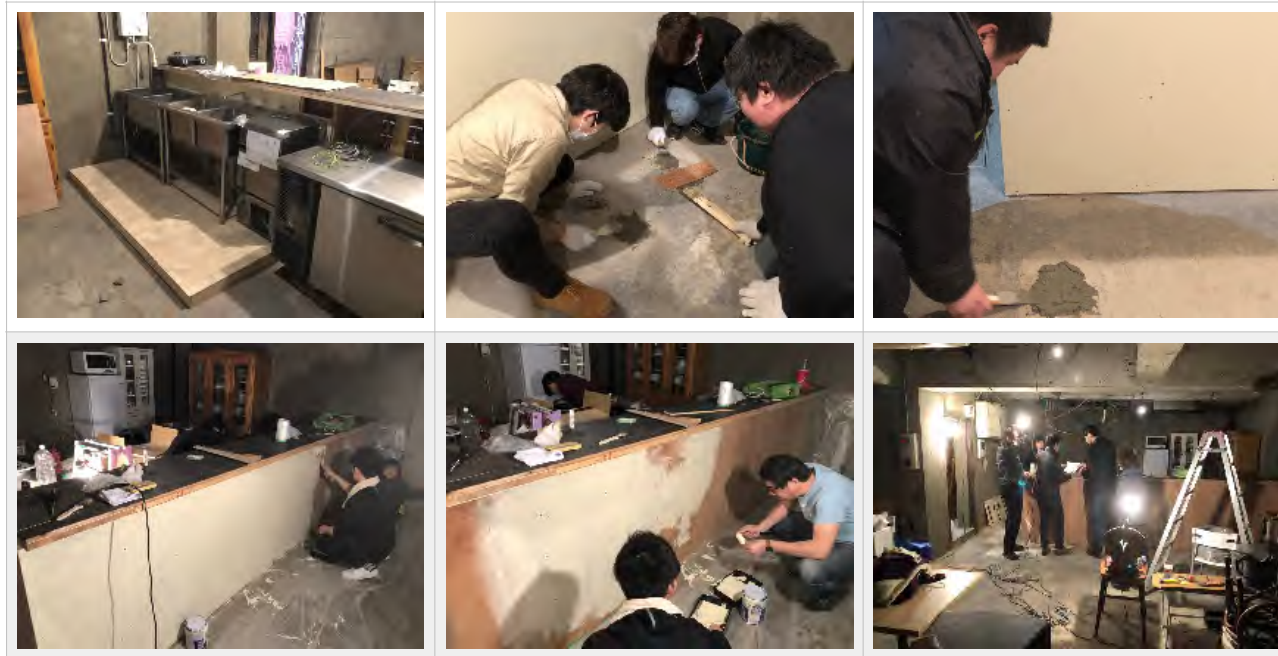
以上の実績、成果に満足することなく、最終年度となる来年度は、実際に整備を終えたMICHI CAFEを起点として、若者会議メンバーによる、まちづくりの活動を加速させていきたい。

(次ページへつづく)

5. MICHI CAFEの整備とオープニングパーティー

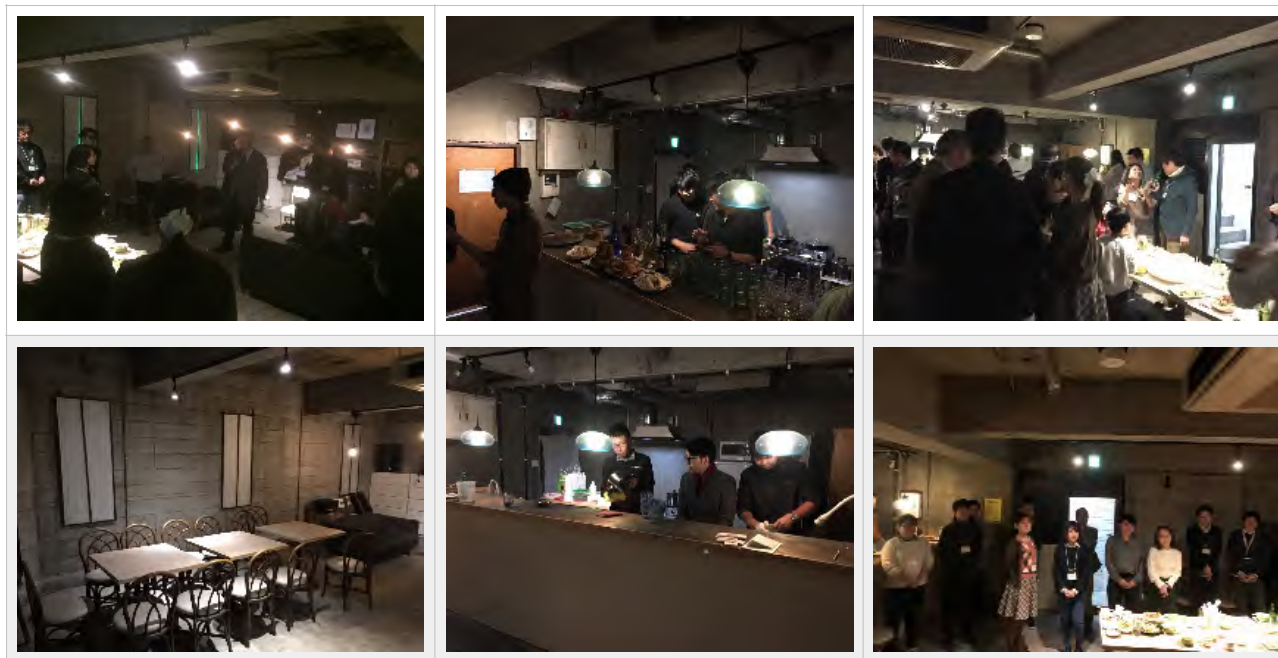
クラウドファンディングを経て、MICHI CAFEの整備を市内の施工業者である齊藤工務店の協力を得つつメンバーのDIYで実施した。

▼DIYの様子



また、2月23日（土）の19時から、MICHI CAFE のクラウドファンディングで支援をいただいた方々をお招きしてオープニングパーティーを実施した。

▼オープニングパーティーの様子



来年度は、この MICHI CAFE を前述した目的の達成に向けて運用するべく、多摩市若者会議および若者のまちづくりプロジェクト運営支援業務委託に取り組んでいく。

以 上